

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	片山 圭一
所属機関名	獣医学部獣医学科
職位	准教授
在籍年	0.5 年

教育の責任

獣医実験動物学部門に所属し、主たる教育活動（講義・実習）として、獣医学科の専門コア科目の動物実験学、実験動物学実習、獣医病理学実習、アドバンスト科目の発生工学、獣医病態モデル学、ライフサイエンス特別実習を行っている。また、国家試験対策の総合獣医学演習Ⅱも担当している。

これらの教育を担当する教員としての責任は以下のようなものだと考えている。

- 獣医師として必要な実験動物学分野に関する知識を習得させること
- 実験動物管理者や実験動物学分野の研究者として活躍することのできる人材を養成すること

また、実験動物学分野を担当する教員としては、これらに加えて生きた動物を扱う人間としてふさわしい倫理観を醸成することも責務であると考えている。

教育の理念

獣医学科に入学したからには獣医師の資格だけとはってもらいたないので、専門コア科目では国家試験の存在を念頭に置きながら教育を行っている。

動物実験学の講義と実験動物学実習は 2 年生の春学期という獣医学科の中では比較的初期の段階に設定されていることから、この時点で獣医師としてふさわしい生命倫理感を醸成する必要があると考えている。これ以降には、動物の生命を犠牲にしなければならない実習も増えてくるため、犠牲になる動物を決して無駄にすることのないように心がけてもらえるように促したいと考えている。

アドバンスト科目では学生の知的好奇心を刺激し、将来研究の世界で生きていこうと思ってもらえるように、研究の魅力が伝わるような講義・実習を行いたいと思っている。

教育の方法・方針

専門コア科目では獣医師国家試験に合格して、獣医師になるために必要な知識を身につけてもらいたいと考えており、国家試験に必要な部分は特に強調して解説を行っている。また、講義の最後にその日に行った分野の中から出題された国家試験の過去問を学生に解いてもらい、講義の内容をきちんと理解しているかを各自が確認できるようにしている。

動物実験学の講義の中では、これから獣医となって働くために必要な生命倫理観、コミュニケーション能力および考える力を養うために、今後の動物実験の在り方についてのグループディスカッションの時間を設けている。さらに、ディスカッションした内容について発表してもらうことで、プレゼンテーション能力を養う機会も設けている。

アドバンスト科目においてはきるだけ最近の研究成果を盛り込むようにし、それが実際にどのような形で我々の生活に役立っているのかを紹介して、研究について興味をもってもらえる

ように心がけている。

教育の成果

動物実験学の定期試験では、獣医師国家試験の過去問を元に少し改変した問題を出題したが、その結果は概ね良好であり、国家試験に必要な知識はきちんと身につけられていると考えられた。また、2025 年春授業アンケートでは、動物実験学の講義については「総合的に判断して、この授業に満足しましたか」という問いに対して「満足」あるいは「ほぼ満足」との回答が、回答した学生の 90%を超えており、その他の問いに対しても概ね良好な回答が得られている。

今後の目標

現在は岡山理科大学で教育を始めたばかりで、学生が私の講義・実習に対してどのように思っているのか、現状では十分に把握できていないところがある。学生と積極的にコミュニケーションを取るようにして、彼らの意見を参考にしながら教育のスタイルを臨機応変に改変し、できるだけ早期に岡山理科大学に適した形を確立したいと考えている。

獣医師国家試験に合格できるだけの知識を習得させるというラインを確保しながら、学生の知的好奇心を刺激し、自分で考える力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、生命倫理感を養っていけるような内容をできるだけ講義・実習に盛り込んでいくようにしていきたい。

近年の実験動物福祉の領域は変化が激しく、関連法規やガイドラインの改定に加えて、新しい概念や実験手法なども次々と導入されているため、関連する学会等に積極的に参加し、最新の知見をアップデートして講義・実習に反映することも怠らないようにしたい。

根拠資料

講義資料、実習資料、2025 年春授業アンケート